

国際交流サロン

11月の「世界の家族のごはん」はアメリカとブータンです。さあ、世界のことを知って交流を始めましょう。

国名と都市	アメリカ ノースカロライナ州	ブータン シングハイ村
家族構成	両親、子ども10代(男2)	両親(2組)、祖父母、乳児(男1) 幼児(男1) 子ども(女1男3) 子ども10代(女1)
一週間の食費	約2万8000円(約350ドル)	約400円(約225ヌルタム)
好きな食べ物(特徴)	セサミチキン、ポテト料理、スパゲティ。(甘いチリソースをからめたパッファロー・ウィング)	赤米、マツタケなどのキノコ、豚肉、チベット風餃子のモモ。(世界一辛い料理の唐辛子とチーズの煮込み)

*乳児(2歳未満)、幼児(6歳未満)、子ども(13歳未満)、子ども10代、子ども20代で表記



◀アラブの古代レシピで作ったピクルス

12月の国際交流情報

12月8日(土)

世界の料理教室 りんごのタルトとレバノン古代レシピのピクルス作り

会場：岩間公民館調理室

時間：午後1時～3時30分

講師：レバノン大使館リエゾンオフィサー

☆12月の日本語教室の開講日

12月1日(土)・15日(土)・22日(土)

(笠間公民館 午前10時～)

世界の料理教室のお知らせ

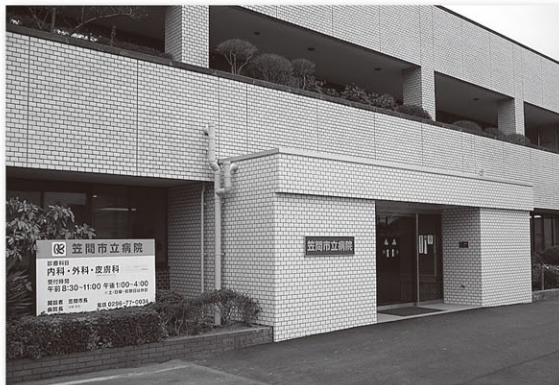
レバノン料理は、現代的なアレンジにはなっていますが、歴史的にみれば古代から継承されているレシピで作られています。レバノン料理の前菜の赤カブのピクルスをアレンジして、冬野菜のミックスピクルスを作ります。アラブのスパイスで異国の香りを味わってみてください。一緒にりんごのタルトも作ります。電話でお申し込みください。参加費：700円 定員：16名(先着順) 用意するもの：ガラス瓶(ピクルスはお持ち帰りできます)

問合せ：一般社団法人 笠間市国際交流協会 TEL090-2761-8711 (木村 美枝子)

市長コラム

市立病院の歩む道

笠間市立病院は、昭和34年に旧友部町国保病院としてスタートしました。現在は、病床30床、常勤医師3名により運営をしています。年間収入は、医業収益が約4.5億円、医業費用が約5億円であり、差額については市の一般会計より3年間平均で毎年約6千万円の予算措置をしています。また、公的医療機関として、平成22年度より市医師会、県薬剤師会笠間支部、県立中央病院のご協力により、平日夜間・日曜初期救急診療も実施



▲ 笠間市立病院正面玄関

しています。さらに、石塚院長のもと在宅診療に重点をおいた取り組みや筑波大との連携事業として「いばらき地域医療研修ステーション事業」を行っています。一方で、施設の老朽化に伴い、毎年の維持補修や設備の更新、そして構造的な問題等による利用上の不便性が目立ってきております。市としては、今後の超高齢化社会の中で、地域医療の中核をなす機関として、これらの課題解決を始め、機能の充実、在宅サービスの強化を図るために、建て替えを検討してまいります。まず、医療関係者等による検討委員会を立ち上げ議論を進め、本年度内には今後の方向性を出してまいります。市立病院は、市民の皆さんに支えられている病院です。市では、今後も市民の皆さんに安全な医療が提供できるよう医師の確保や健全経営に努めてまいります。皆さんも愛着をもって市立病院をご利用いただくよう、よろしくお願

笠間市長
山口伸樹